

令和7年度海陽町立海南病院改革検討委員会議事録

令和7年10月27日（月）

18：30～19：30

海陽町役場海南庁舎

3階大会議室

事務局： 定刻がまいりましたので、ただいまから「令和7年度海陽町立海南病院改革検討委員会」を開催いたします。

私は、海南病院事務長の川野でございます。委員長が決まるまでの間、進行を努めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日お配りさせていただいております資料に、不足はございませんでしょうか。それでは、次第にそって会議を進めたいと思います。

はじめに、三浦町長より、あいさつを申し上げます。

町長： 本日は海陽町立海南病院改革検討委員会の開催をお願い致しましたところ、昼間お仕事でお忙しい中にも関わりもせず委員のみなさま方にはご出席頂きましてありがとうございます。

この検討委員会設置の経緯についてですが、海南病院は令和元年9月に、厚生労働省より再編・統合を検討する必要がある424病院の一つに公表されました。当時、医療政策統括官であった日浅先生に町議会の全員協議会に出席頂きまして、海南病院の状況と必要性、今後の取組みについて説明して頂きました。議会や住民が一つになって、海南病院を応援して頂かなければ厳しい状況だということを理解する中で、改革検討委員会を設置することとなりました。日浅先生には、本当にご足労頂いて、感謝いたします。ありがとうございました。

それからの4年間で、計10回の会議を開いて、今後の方向性やあり方を検証する中で、病床機能や病床数は現状を維持しながら、医療従事者の確保、看取り患者の受入れ、在宅医療の充実、救急受入れ体制の機能分化の推進、町からの繰入金の縮小を実践するという中で、令和5年12月に、令和9年度までの海南病院経営強化プランを策定したところです。

本日は、令和6年度目標の達成について、各方面からみなさま方の評価を頂くことになろうかと思いますので、よろしくお願いいたします。

海南病院は、都市部から遠いということで、医療従事者の確保が難しいと言われていましたが、海南病院を応援してくださる方々の手助けを頂き、碩心館病院から宮本先生が来て頂いたのをはじめとして、昨年度から笠岡第一病院から國永先生、吉永先生が、田岡病院から谷口診療看護師さんが、今年度から神奈川県から森保先生が、さらには全国各地から多くの先生が来て

頂けるようになり、目に見えて成果が出てきております。

また、研修医や医学生もどんどん実習に来ており、神澤院長をはじめとする、職員の前向きな努力もあり、徳島県の地域医療のモデルにも取り上げられるようになりましたし、開業医の先生や介護施設からのサポートも頂いて、一つになって、取り組んだ成果で、今では各方面からありがたい声も聞くようになりました。

数字上でも徐々にではありますが、変化が見えてきていると思いますので、本日の検討委員会では、みなさま方のさらなるアドバイスを頂きますようよろしくお願いします。

将来にわたり海陽町の住民が住み慣れた場所で生活できるように、これからも人との繋がり、寄り添う医療が実践できるように、引き続き取り組んでまいりたいと思いますので、みなさまの忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたしまして、冒頭の挨拶といたします。みなさん、どうぞよろしくお願い致します。

事務局： 委員長及び副委員長の選任について」でございますが、検討委員会設置要綱第5条第2項で、「委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める」と規定しております。

委員のみなさんの中で、委員長及び副委員長を推薦していただければと思いますが、いかがでしょうか。

委員： 委員長には、海部郡医師会会長で、長年地域医療にたずさわっておられます松田委員にお願いできればと思います。

また、副委員長には、高齢化が進む中で、地域の高齢者の方の見守りを各機関と連携しながら行っておられます、海陽町民生児童委員協議会会長の若井委員にお願いできればと思います。

事務局： さきほど、委員から、委員長に松田委員、副委員長に若井委員とのご推薦がございましたが、いかがでしょうか。

ありがとうございました。委員長に松田委員、副委員長に若井委員に就任していただいてよろしいでしょうか。

それでは、委員長になりました、松田委員長より、一言いただければと思います。よろしくお願いします。

委員長： 委員長に推挙された松田です。委員のみなさまにおかれましては、ご多忙のなか、海南病院改革検討委員会に出席して頂き、誠にありがとうございます。昨今の医療介護業界の現状は、物価上昇により材料費、光熱費の高騰、人件費の増、また2年に1度行われる診療報酬改定により、減額された内容もあることから、令和6年度の病院決算状況では、日本全国の7割の病院が赤字経営となっています。海陽町も少子高齢化により、

人口減少が徳島県内でも加速的に進行しています。

その中で海南病院を、どう維持していくか、過去を振り返って考えてみますと、私は海部郡医師会長を8年務めています。前半は海南病院は、身近でなかった、後半は身近になった。これは、三浦町長の考え方に基づいて、事務長が根を這うように入り込んで、みんなとコミュニケーションをとりながら、今にいたったと思います。

また、日浅先生をはじめ、各方面から様々な先生が、海陽町に縁のある先生が、来て頂くようになった事は大きいことだと思います。

本日は、海南病院経営強化プランの令和6年度実績を検証し、短い時間ではありますが、みんなで知恵を出し合いながら、今後の海南病院に、どうかしていくか、役にたてるようご協力よろしくお願いします。

事務局：ここからの議事運営につきましては、設置要綱第6条第1項の規定によりまして、委員長にお願いしたいと思います。

委員長：議題にそって会議を進めたいと思います。

議題(1)「海陽町国民健康保険海南病院経営強化プラン点検・評価(令和6年度実績)」について」を議題とします。

事務局より説明して下さい。

事務局：議題(1)「海陽町国民健康保険海南病院経営強化プラン点検・評価(令和6年度実績)」について」について説明。

委員長：ただいまの説明につきまして、質疑等ございませんか。

委員：訪問診療と訪問看護が大きく目標を上回っていますが、理由は。

事務局：訪問診療については、人数は目標を下回っているが、訪問診療は診療単価が高いため上回った。

また、訪問看護については、訪問に出れる体制が整ったうえに、見込みより需要が多かったからです。

委員長：人件費が高く経営は厳しいと思うが、これからの方向性は。

事務局：医業収入で人件費を賄なければならないのは民間病院では通常であるが、令和6年度でもできてない。

ただし、入院、外来収入とも、令和5年度と比べて大きく増えた。

今後の方向としては、入院収入に重きをおくが、訪問診療等を増やし、在宅患者の体調が悪くなれば、すぐに入院できるような体制を整うことにより、在宅患者からの入院、日浅先生をはじめ、外来も専門の先生が来て

頂いているので、あらゆる事をそれぞれが考え模索しながら実践しているところであります。

収支については、収入と人件費のバランスを勘案しながら、医業収入の増に努めてまいります。

委員： 外来患者は、開業医の先生と分担していき、海南病院は専門的な疾患を引き受けようと思います。入院患者を 25 人以上の目標を掲げており、この目標が達成できれば、給与比率が 100%を下回ると考えています。

病院は入院患者を増やすというのが基本であり、住民が海南病院に来れば、どのような状態でも見れるということになれば、25 人の目標は達成できると思います。

委員長： 入院患者が増えない限り収入は増えない。ただ、昨年から入院患者は増えている。郡医師会との関係ですが、以前はできてなかったが、今は、この患者さんどうしようかと相談すれば、すぐに対応して頂ける、これが大事なことだと思います。このことにより入院患者が増え、治れば返して頂くという事ができています。

入院患者が増えれば、看護師も増やさなければいけないと思うが、そこはどうでしょうか。

事務局： 入院患者を多く受け入れるには、看護師、看護アシスタントを増やす必要があります。正規職員だけでなく、会計年度任用職員も含め、徐々に人員の確保ができつつあります。ただ、一度に多く採用となると、人件費の問題もあるので、収入と人件費のバランスを勘案しながら効率よく収入の増に努めたい。

委員長： 議題 2 のその他何かありますでしょうか。

委員： 昨年から若手医師が勤務され、いろんな事をやっていますが、ここで思いを言って頂きたいと思います。

医師： まずは、海南病院を長い目で見て頂きたい。昨年から週 1 回の勤務なのにこれまでより収益が上がっています。それはスタッフが頑張っているからで、全国的にみても、小規模病院で収益が上がるという事は、めずらしいことである。

個別の診療で言うと、これからは巡回診療は減ってくると思うが、訪問診療、看護は増えてくると思う。誰もが在宅で治療を受けたいと願うからで、できる限り家で生活できる仕組みを作らなければいけない。

外来診療は、開業医の先生にお願いして、入院は海南病院が受け入れることが大切である。

令和 6 年度は、入院収入も増えているが、人件費等の経費も増えている。

令和7年4月、5月は、入院患者は30人を超えていて、収入もかなり増えた。ただ、看護師は増えてないので、1人1人の負担も増えている。この状態では長続きしないので、今は少々抑えている。

看護師等の受け入れの人員が増えると、入院患者も多く受け入れることができるので、収入も増える。

海南病院では、病院見学旅費補助金制度をつくったので、看護師等の見学者が増え、会計年度任用職員ではあるが、人材の確保が徐々にできているので、さらに入院患者の受け入れができるようになる。

また、人件費で言うと、常勤医師を増やす方が、非常勤医師を増やすより人件費は少なくなる。今、徳島大学生との交流も盛んで、海南病院に興味を持って頂いているので、将来、1人でも2人でも一緒に働けたらと思います。

これから5年先ぐらいで、いい体制を作っていきたいので、温かく見守って頂きたいと思います。

委員長： 先生は、5年、10年先のことで考えてられて、頼もしい限りです。さすが、総合診療医、その意気込みが続きますよう、みんなで頑張ってもらいたと思います。あと、他の委員でありますでしょうか。

委員： 施設としても、海南病院との連携ができるようになりました。

ただ、数字でいくと、病床稼働率が低く、給与比率が高い。これから、益々人口減を考えれば、厳しい状況だと思います。

とにかく、入院患者の稼働率を上げなければいけないと思います。施設としても、さらに連携の強化をしたいと思います。

委員： 今日の説明、みなさんの意見を聞いて、海南病院が以前と比べて大きく変わったと思います。自宅で最期を迎えるのが幸せだと思っており、先ほど先生が、できる限り家で過ごせるようにしますと言って頂いた事にうれしく思います。

委員： 通院で、病院へ行きますが、本当に雰囲気が変わったと思う。数字をみても、以前に比べたら良くなっていると感じます。

副委員長： 外来については、非常勤の先生が多いと思う。患者は同じ先生に診てもらった事が安心に繋がる、常勤医の確保について頑張ってもらいたい。

4月、5月は無理をして、入院患者を受け入れて、収益も上がった、看護師等の確保をすれば、収益も上がるのであれば、確保していけばと思う。

また、海南病院は町内で入院ができる唯一の病院なので、ある程度、町からの繰入れは致し方ないのではないかと思います。

医師： 委員が言われているとおり、外来は非常勤の医師が多いですが、海南病院としては、一般的疾患は開業医の先生に診て頂き、特殊な疾患患者などを診る、そして、入院患者はしっかり受け入れ、安定すれば、開業医の先生におまかせしたり、在宅へ帰すのが役割だと思います。

事務局： 患者さんにとって、長く同じ医師に診てもらう事は安心であるが、すぐには常勤医師の確保が厳しい状況のなか、非常勤医師が連携をとり、医師だけでなくチームで患者さんを診ていくことにより、安心に繋がると考える。引き続き、常勤医師については、あらゆる方法、関係機関との連携により確保に努めたい。

委員： 海南病院は令和元年に、厚生労働省から再編統合を検討しなさいと公表され、町としては、海南病院を存続したいとの思いで、日浅先生をはじめ、國永先生の力も借りながら、徐々にではあるが、数字的には良くなっている。職員も一つになって、良い方向に進んでいる。町からの繰入金や、収益については、これからまだまだ改善していかなければならないが、委員が言われてたように、海南病院は雰囲気が変わったと、良くなっていると、住民が、来院された患者さんが、肌で実感されている事であり、益々良くなっていくと確信しています。これからも、みなさまからの意見を頂きながら改善していけたらと思います。

委員長： 入院患者を増やしたいんだけど、それに対応できる看護師が足りてない、増えたとしても人件費とのバランスを考えなければならない。町から多額の繰入をしてもらっているが、住民から、やっぱり海南病院がないと困るなあ、あって良かったなあとの声が返ってくれば、そうなれば良いと思います。みんなでチームとしての積み重ねですので、よろしくお願いします。

院長： 本日は、令和6年度実績の評価を頂きありがとうございます。海南病院は職員が少ないなか、一つになって頑張っています。また、多くの先生方から、支援を頂きながら、充実してきたとも思います。
これからも、いたらない所もあると思いますが、みなさんの期待に答えられるよう努めてまいります。

委員長： 他ご意見ありますでしょうか。ないようですので、
以上で、本日の議題は全て終了いたしました。
事務局より、何か説明があればして下さい。

事務局： 連絡事項説明。

委員長： それでは、以上で本日の会議を終了させていただきます。
長時間の慎重審議、ありがとうございました。